Fukushima with a SMILE!
つながる東北

ふくしまから
はじめよう。
Future From Fukushima.

2019.1.20
号外①

おめでとう！

全国男子駅伝 祝 福島県初優勝!!

福島V 東北勢初

○駅伝　都道府県対抗男子

第24回全国都道府県対抗男子駅伝は20日、広島市平和記念公園前発着の7区間、48㌔で行われ、福島が2時間19分43秒で、平成最後の大会で東北勢として初の優勝を果たした。

前回大会まで東北勢は3度2位になっており、福島が1999年と2010年、宮城が15年に頂点まであと一歩と迫っていた。

福島は序盤から上位争いに加わり、5区で首位に立った。6区で群馬にかわされたが、最終7区で東京箱根間往復大学駅伝（箱根駅伝）で東洋大の往路優勝に貢献した相沢（福島・学法石川高出）が25秒差の2位でたすきを受けた。相沢は首位に躍り出て、そのまま駆け抜けた。

3区で塩尻（順大）が区間賞の快走を見せるなどした群馬が過去最高の2位に入り、7度の優勝を誇る長野が3位。地元の広島が4位、2連覇を目指した埼玉は17位にとどまった。

福島以外の東北勢は宮城が12位、岩手が19位、秋田が29位、山形が31位、青森が41位だった。

7-7
ダイソー
DAISO ダイソー
天皇盃 第24回全国男子駅伝

ゴールする福島のアンカー相沢。東北勢として初優勝を果たした

◇成績

①福島（小指、藤宮、阿部、横田、松山、宍戸、相沢）	2時間19分43秒
②群馬	2時間20分18秒
③長野	2時間20分22秒
④広島	2時間20分38秒
⑤長崎	2時間20分56秒
⑥鹿児島	2時間21分22秒
⑦愛知	2時間21分26秒
⑧福岡	2時間21分28秒
⑫宮城	2時間21分44秒
⑲岩手	2時間22分25秒
㉙秋田	2時間24分4秒
㉛山形	2時間24分9秒
㊶青森	2時間25分53秒

◇区間1位記録

▷1区（7㌔）
葛蒲敦司（山口・西京高）20分32秒
▷2区（3㌔）
滝沢愛弥（栃木・藤原中）8分36秒
▷3区（8・5㌔）
塩尻和也（群馬・順大）23分55秒
▷4区（5㌔）
横田俊吾（福島・学法石川高）14分14秒
▷5区（8・5㌔）
佐藤一世（千葉・八千代松陰高）24分29秒
▷6区（3㌔）
堀口花道（群馬・甘楽中）8分35秒
▷7区（13㌔）
相沢晃（福島・東洋大）37分14秒

◇男子駅伝最近10年の優勝チーム

2010年	兵庫	2時間20分2秒
11年	栃木	2時間19分31秒
12年	兵庫	2時間20分19秒
13年	兵庫	2時間19分51秒
14年	長野	2時間19分20秒
15年	埼玉	2時間19分14秒
16年	愛知	2時間20分12秒
17年	長野	2時間19分9秒
18年	埼玉	2時間19分10秒
19年	福島	2時間19分43秒

最終区で逆転

【経過】福島が最終区で逆転した。安定した走りで1～4区まで上位を維持し、5区の松山が首位を奪取。6区の宍戸も2位と踏ん張り、7区で相沢が群馬を中継すぎに一気に抜いて、25秒差をひっくり返した。群馬は3区と6区で区間賞と快走したが、アンカーの牧が失速して2位。長野は堅実な走りで3位に入った。連覇を狙った埼玉は序盤の出遅れが響いた。

○…リオ代表塩尻、貫禄の区間賞　リオデジャネイロ五輪3000㍍障害代表で、箱根駅伝でも活躍した群馬の塩尻（順大）が貫禄の走りを見せた。3区で区間賞を獲得し「個人賞も取れて良かった」と満足そうだった。

トップと12秒差の9位でスタートし、リズムの変わらない走りで8人を抜き、首位でたすきを渡した。「（箱根駅伝から）いかにコンディションをつくるかがテーマだった。しっかりできた」と胸を張った。チームも過去最高を更新する2位。主将を務めた塩尻は「チームにとってよかった」と笑顔だった。

「王国」復活 会心レース

過去2位が最高だった福島が東北勢初優勝を飾った。最終7区の相沢（東洋大）は首位の群馬と25秒差の2位でたすきを受け取り「どんな位置でもらっても、1位でゴールすると決めていた」。頼れるアンカーは7・5㌔付近で追い付くと、さらにギアを上げて一気に突き放した。独走し、両手を広げてゴールテープを切り「おいしいところを頂けた」とはにかんだ。

4区横田（学法石川高）の区間賞の走りで7位から3位に浮上。5区の松山（学法石川高）が残り約770㍍で「先頭に出て、勢いを付けられた」と首位に立った。6区の宍戸（東和中）が2位に後退したが、箱根駅伝でも快走した相沢にとっては想定内だった。昨年は胃腸炎で欠場しただけに、区間賞も獲得して「2年分の走りができた」と胸を張った。

福島は2008年北京五輪男子マラソン代表の佐藤敦之（現京セラ女子陸上部監督、会津若松市出身）や今井正人（トヨタ自動車九州、原町高－順大出）ら名ランナーを輩出。安西監督は選手に「福島の代表になるのは五輪選手になるより難しい。その中で選ばれるのは素晴らしいこと」と伝えてきた。さらなる飛躍を期し「若い選手が多いので、これから駅伝王国福島を再構築できるいいレースができた」と言葉に力を込めた。

提供：河北新報社（2019年1月21日）